

(一社) 日本臨床耳鼻咽喉科医会

令和 6・7 年度 第 4 回理事会議事録

令和 6 年 12 月 15 日(日) 13:00~16:15 (臨床耳鼻科医会会議室)

出席者 会長：川寄良明 副会長：川島佳代子、野上兼一郎、藤岡 治

理事：阿部博章、朝比奈紀彦、麻生 伸、大滝 一、塩見洋作、玉木克彦、中川尚志、
中澤 宏、永田博史、春名眞一、松岡 徹、宮部和徳、横田雅司、吉村 理

監事：浅井英世、高原哲夫 (計 21 名) 事務局：井出あゆみ、平間妙子

会長挨拶

年末のお忙しい中でのご出席に謝意を示す。

理事会の途中で、令和 7 年 7 月に実施予定の参議院選挙比例区において日本医師連盟組織内候補として立候補予定の日本医師会副会長の釜范敏(かまやちさとし)先生が挨拶に来られる。

また、令和 6 年 12 月 26 日には、武見敬三議員と橋本岳議員の勉強会もある。

令和 7 年 4 月 13 日には、日本臨床耳鼻咽喉科医会設立及び 5 周年記念式典祝賀会が行われる。

各委員会では色々なアンケートが作られているが、その内容は理事会でも確認させてほしい。理事会のタイミングが合わなければメール会議でも構わない。

日耳鼻前理事長村上先生がオールジャパンプロジェクトを立ち上げた。

これは将来の耳鼻科新規医療の開発と推進を目的とし、当会からは私と藤岡副会長がメンバーとなっている。日耳鼻と協力して臨床研究を補助するという話もでている。

厚生労働省が、かかりつけ医機能報告制度を作っている。背景には人口動態・医療需要・マンパワーの変化等があり、対象は特定機能病院及び歯科医療機関を除く病院・診療所で、我々にも関係がある。報告できる疾病の案には耳鼻科疾患も含まれており、耳鼻科医もできるだけやれるところをやるというスタンスが良いと思う。その機能には 1 号と 2 号があり、2 号機能はハードルが高いが時々往診をしていれば認められるかもしれない。耳鼻科もかかりつけ医機能を持っていることをアピールすると良いと考える。なお、データは GMIS を使って収集するようである。

報告事項

1. 庶務委員会 (松岡理事)

(1) 令和 6・7 年度第 3 回理事会議事録(2024.9.1)について報告した。 【資料 1-1】

(2) 令和 6 年 12 月 14 日までの入会・退会・異動および会員数を報告した。 【資料 1-2】

・入会 55 件、異動 68 件、退会 97 件があり、令和 6 年 12 月 14 日現在 A 会員 4,236 名、B 会員 2,919 名、計 7,155 名であった。

・令和 6 年 8 月 30 日からの会員数増減は、A 会員 51 名減、B 会員 21 名減、計 72 名減であった。

2. 広報委員会 (中澤理事)

【資料 2】

(1) 令和 6・7 年度第 3 回広報委員会を Zoom で開催した。(令和 6 年 11 月 27 日)

・ホームページは新たなトップページを作り、入口を会員医療機関と一般の方の二つにする。
・会員用の入口は ID とパスワードの入力場所を目立たせて解り易くする。

以上を 3 月末までに行う予定である。

3. 経理・会員福祉委員会 (塩見理事)

(1) 会計報告

【資料 3-1, 3-2】

①令和 6 年 11 月末までの会計報告を行った。

②通常の支出以外で主なものはアルバイト事務員が使用する事務机とパソコン1台、日耳鼻応接室の書架を借りている状態を解消するための書庫2台の購入を報告した。

(2) 開業医急病時の代診医バンクの経過報告 【資料 3-3】

- ・臨床耳鼻科医会提案の開業医急病時の代診医の人材バンクについて、日耳鼻専門医育成・活用 W.G. で議案となり、協議の結果今後本 W.G. でこの人材バンクも実現を目指すこととなった。
- ・休暇による休診は対象外であることが確認された。
- ・同門会などを窓口とした以前からある紹介方法とは共存することとなるか？（藤岡副会長）
→共存すると思われる。出身大学と離れた場所で開業している医師の利用が想定される。（塩見理事）

4. 地域医療委員会（横田理事）

(1) 令和 6・7 年度第 3 回地域医療委員会を開催した。（令和 6 年 11 月 7 日） 【資料 4-1】

(2) 令和 6・7 年度第 2 回地域医療委員会を開催した。（令和 6 年 9 月 8 日） 【資料 4-2】

①救急医療に耳鼻科医がどのように関与するかが検討された。

- ・山形市では救急当番から耳鼻科が外れているが、めまい、中耳炎等の患者が救急を受診した後に、耳鼻科への受診に導くことを考案する。

②「2024 年能登半島地震に関する調査」の結果がまとまった。

- ・地域医療委員の鹿野真人先生の総括と提言があり、学会・医会が積極的に災害医療に取り組むべきであるとされている。

(3) 災害医療担当医のアンケートについて 【資料 4-3】

各都道府県で災害医療に係わったか、または関心がある耳鼻科医の有無につきアンケートを行った。

結果は後日報告する。

(4) 軽度嚙下障害診療についてのアンケートについて 【資料 4-4】

軽度嚙下障害に関するアンケートを作成した。実施予定である。

5. 保険医療委員会（玉木理事）

(1) 令和 6・7 年度第 2 回保険医療委員会を日耳鼻会議室で開催した。

（令和 6 年 9 月 28 日） 【資料 5-1】

①一時供給停止、出荷調整、出荷再開の医薬品について報告した。 【資料 5-2】

② 厚生労働省へ提出する要望書の作成について報告した。

- ・イソバイドシロップやアデホスコーワ顆粒等も不採算品目であることを報告した。

③ 令和 8 年度診療報酬改定要望アンケートについて報告した。

④ アップル補聴器については後述する。

⑤ 保険医療委員会ワークショップ・全国会議の開催方法およびプログラム内容について

- ・令和 7 年 1 月 25 日に TKP ガーデンシティ PREMIUM 品川にて行われる内容について協議した。

⑥ 保険医療委員会全国協議会の打ち合わせについて

- ・第 19 回日耳鼻保険医療委員会全国協議会における全国のブロックからの質問事項 26 議題について保険医療委員会で協議した。

(2) 第 19 回日耳鼻保険医療委員会全国協議会の開催について

① 第 19 回日耳鼻保険医療委員会全国協議会が TKP ガーデンシティ PREMIUM 品川において開催された。（令和 6 年 9 月 29 日）

② 全国のブロックからの質問事項について保険医療委員会で協議された回答を行い、

質疑応答を行った。

③ 令和 5 年度耳鼻咽喉科実態調査報告を行った。

- ・内容は、令和 6・7 年度第 3 回理事会にて報告済みである。

(3) 令和 6・7 年度第 3 回保険医療委員会を日耳鼻会議室（Zoom 併用）で開催した。

（令和 6 年 10 月 17 日）

① 一時供給停止、出荷調整、出荷再開の医薬品について報告した。【資料 5-3】

② 厚生労働省へ提出する要望書の作成について報告した。【資料 5-4】

③ 令和 6 年度保険医療委員会ワークショップおよび全国会議について協議した。【資料 5-5】

令和 7 年 1 月 25 日（土）に開催予定であり、講演について以下の講師に依頼した。

共通講習

- ・福岡 順也教授（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 情報病理学）

「病理診断における AI の研究とその臨床応用について－医療倫理に配慮した開発導入－」

ワークショップ

- ・萩森 伸一教授（大阪医科薬科大学・保険医療委員会委員長）

「耳鼻咽喉科保険医療実態調査 20 年－診療の変化と今後の課題－」

④ 手術委員会への調査協力について協議した。【資料 5-6】

- ・令和 8 年度の外保連に提出する試案は 5 つ（新規手術項目 3 項目と加算項目 2 項目）を予定している。

- ・手術試案を作成する上で医療材料再調査が必要であるため実態調査依頼があった。

現在耳鼻科の K コード内に登録されている医療材料について、点検を行う担当の委員に手術・医療材料などの実態調査をしてもらうこととなった。

⑤ 第 126 回日耳鼻総会・学術講演会の講演内容について協議した。【資料 5-7】

「保険医療の最前線－明日の診療を支える舞台裏－」を演題名として日耳鼻理事会に提出することとなった。

⑥ エピシル口腔溶液®について

- ・がん等に係る放射線または化学療法による口内炎に対する外用剤であるが、現状では歯科医療でのみ適応がある。

- ・医科診療でも適応となるよう日医疑義解釈委員会より厚労省へ要望したところ、内保連・外保連を通して申請するように、との連絡があった。

⑦ その他

ア) 日耳鼻保険医療委員会全国協議会での質問に関して

- ・舌下免疫療法の管理料算定について舌下免疫療法をいったん中断し再開する場合、いわゆる再来初診での舌下免疫療法治療管理料の算定は「B001 35-ロ 2 月目以降」で算定するのが妥当である。

- ・睡眠時無呼吸症の在宅検査について

全国会議で在宅での検査は厚労省が認めておらず、日耳鼻でも同じく認められないと回答しているが、社保の AI 審査では通っている。他科との協議も必要と思われた。

イ) 補聴器関連の比較一覧表について説明があった。【資料 5-8】

アップル社より発売されている「AirPodsPro2®」が、iOS18.1 以降聴力をチェックし、その結果に応じた軽・中等度難聴へのヒアリング補助機能を有するようになった。

- ・「AirPodsPro2®」が「管理医療機器」になったと報告されたが説明をお願いしたい。

（野上副会長）

→「管理医療機器」の承認は誰が行ったかは web 上では確認出来なかった。(玉木理事)
→本邦では PMDA が関与して、「管理医療機器」ではなく「家庭用医療機器」として分類された。
(中川理事)

6. 学校保健委員会 (朝比奈理事)

【資料 6】

(1) 令和 6・7 年度第 1 回学校保健委員会が web 開催された。(令和 6 年 9 月 26 日)

①日本学校保健会報告

理事として野上副会長、評議員として朝比奈理事が留任された。

②「耳鼻咽喉科健康診断マニュアル」改訂について

- ・「耳鼻咽喉科健康診断マニュアル」改訂版の素案が完成した。
- ・令和 6 年度学校保健全国代表者会議で承認を得た後、令和 7 年 3 月頃発行予定である。

③令和 6 年度学校保健全国代表者会議・学校保健研修会について

令和 7 年 1 月 26 日 (土) に開催予定である。

「耳鼻咽喉科学校医配置率・学校健診実施率向上を目指して」を協議内容とし、研修会での講演について以下の講師に依頼したことが報告された。

- ・原 浩貴教授 (川崎医科大学)

「小児の睡眠呼吸障害 耳鼻咽喉科医に求められるもの」

④埼玉県上尾市における耳鼻咽喉科学校健診について

- ・川寄会長自ら当事者と 10 月 25 日に電話対談した。
- ・教育委員会や行政ならびに医師会と良好な関係性を築いたうえで、今後の対応については地域で解決してもらうよう関係者に助言した。
- ・本事例の経緯については埼玉県地方部会学校保健委員長にも報告し、学校保健委員会で情報を共有する旨、連絡した。

⑤「学校において予防すべき感染症の解説 (令和 5 年度改訂)」について

日本学校保健会から冊子「学校において予防すべき感染症の解説 (令和 5 年度改訂)」が発行された。その中で、新型コロナウイルス感染症に係る出席停止期間の基準を「発症した後 5 日を経過し、かつ、症状が軽快した後 1 日を経過するまで」とする規定についても記載されており、耳鼻咽喉科学校医に周知する目的で臨床耳鼻科医会 HP にて情報提供を行った。

(2) 令和 6・7 年度第 2 回学校保健委員会が開催された。(令和 6 年 12 月 12 日)

①ヘッドホン・イヤホン難聴対策 WG の進捗状況について

- ・「児童生徒向けの動画」および「成人向けスライド」が完成した。
- ・これらの資料を令和 6 年 12 月 20 日の日耳鼻理事会の審議事項として提出している。
- ・「児童生徒向け動画」については健康教育のためのツールとして活用することになった。

②終了後、乳幼児・学校保険合同委員会を開催し、今後の活動内容につき協議した。

(3) 第 2 回日本医師会学校保健委員会が開催された。(令和 6 年 12 月 13 日)

①令和 7 年 4 月 13 日に開催予定である令和 7 年度学校保健講習会において、「シンポジウム：学校健康診断の現状について」を行うことが報告された。

②上記講習会において耳鼻咽喉科学校健診の現状と問題点について、千田英二先生 (北海道) および真栄城徳秀先生 (沖縄県) が講演し、専門医による健診率向上などについて会場とのディスカッションを行う予定である。

(4) 第 55 回全国学校保健・学校医大会報告

令和 6 年 11 月 9 日 (土) に宮崎県で開催され、分科会 (耳鼻咽喉科) では 12 題の発表があった。

(5) 日本学校保健会：「難聴の予防・啓発指導資料」作成委員会報告

2004 年に日本学校保健会から出版された「難聴児童生徒への聞こえの支援」について、最新版を作成中である。

7. 福祉医療・成人老年委員会（大滝理事）

【資料 7】

(1) 令和 6・7 年度第 1 回福祉医療・成人老年委員会が web 開催された。（令和 6 年 8 月 21 日）

①令和 4・5 年度第 6 回福祉医療・成人老年委員会議事録承認について

②令和 6 年度事業計画（案）、予算要求額（案）を確認のうえ承認した。

- ・補聴器 WG が設置された。

- ・委員は以下の 5 名である。（敬称略）

中川尚志、香取幸夫、羽藤直人、石川浩太郎、大滝一

③令和 6 年度福祉医療・成人老年委員全国会議について

ア) 令和 7 年 1 月 25 日（土）に開催予定である。

イ) 講演について以下の講師に依頼したことが報告された。

領域講習

伏木 宏彰教授（目白大学 保健医療学部言語聴覚学科）「平衡障害とフレイル（仮）」

講演

渡邊 雄介教授（国際医療福祉大学）「音声障害に関して（仮）」

津田 潤子講師（山口大学）「喉頭摘出術後の音声リハビリについて（仮）」

④第 50 回福祉医療サマーセミナー・第 30 回補聴器キーパーソン全国会議について

- ・令和 7 年 6 月 28 日、29 日に開催予定である。

- ・講習会 6 部構成のうち、第 1～4 部は 45 分×4 で実施し、補聴器相談医更新のための講習会の 1 単位になる。

⑤第 51 回福祉医療サマーセミナー・第 31 回補聴器キーパーソン全国会議について

令和 8 年 6 月 20 日（土）、21 日（日）に開催を予定している。

⑥補聴器相談医名簿の修正について

日耳鼻 HP にて補聴器相談医名簿が公開されているが、検索しづらいため修正を予定している。

⑦補聴器相談医委嘱・更新のための講習会について

- ・補聴器相談医委嘱・更新のための講習会は日耳鼻秋季大会や福祉医療サマーセミナーで更新のための単位が取得できるようになり、講習会の需要に変化が生じている。

- ・地方部会主催の講習会に関して都道府県医会長にアンケート調査を行う予定である。

⑧補聴器装用に係る診療のお願い（補聴器販売店協会作成案）について

文章等の配置の検討を依頼した。

⑨その他

医療福祉・成人老年委員会は年 3 回開催されていたが、増加する諸問題に対応する時間が不足しているため年 4 回開催する方針となった。

(2) 令和 6・7 年度臨時福祉医療・成人老年委員会が web 開催された。（令和 6 年 9 月 26 日）

①第 1 回福祉医療・成人老年委員会議事録承認について

②福祉医療・成人老年委員会の今後の活動について

難聴に加え、平衡機能、音声言語機能、そしゃく嚥下機能に関する啓発活動にも注力していくことを確認した。

③補聴器 WG の今後の活動について

- ・今後の補聴器に関する様々な課題に対応するための WG を設置した。

- ・委員は以下の5名である。(敬称略)

新谷朋子(札幌市)、高橋辰(横手市)、麻生伸(富山市)、錦織朋之(島根県安来市)、大滝一(新潟市)

④補聴器相談医名簿について

- ・補聴器相談医名簿の一覧表記について、施設住所を明記し五十音順に表記する。
- ・補聴器販売業は地域依存性が高いので、補聴器相談医姓名の五十音順とすると、探しにくいのではないかと(阿部理事)

→施設住所を明記し五十音順とする。県単位、区単位も考慮する。(大滝理事)

⑤第49回福祉医療サマーセミナーのオンデマンド配信について

4週間のオンデマンド配信を行ったが、200名弱の未受講者がいたため費用を試算のうえ2週間の再配信を行った。

- ・再配信の結果は如何であったか?(川寄会長)

→80名の追加受講者があった。(中川理事)

⑥その他

ア)「補聴器装用に係る診療のお願い」について

補聴器販売店から耳鼻咽喉科医へ診療を依頼する際に使用する書面に関して、学会と医会のロゴが掲載された書式を作成し、承認された。

イ) 家庭用医療機器に分類される補聴器について

(3) HP掲載記事について

- ①(第1報)助成実施自治体急増中!「補聴器購入費用助成に向けてのノウハウ〜新潟プロジェクトの経過から〜」(令和6年11月7日掲載)

- ②(第2報)助成実施自治体急増中!「新潟における補聴器購入費用助成実績と全国の動向」(令和6年11月25日掲載)

(4) その他の質問

- ・「補聴器相談医」は一般的だが、日耳鼻マイページに「補聴器診療医」が掲載されている。あまり認識されていないがどの様に作成されたものか教えて頂きたい。(中澤理事)

→補聴器診療を行っている診療所のリストが作成された際、日耳鼻各会員に掲載許可を取っていなかったため、日耳鼻マイページのみに掲載されている。(中川理事)

- ・将来的には認定補聴器専門店を含めて一般に公開されるものか?(藤岡理事)

→あまり関与しておらず詳細不明であるが、WGが独自にアンケートを行い作成したもので、公開するにあたっては、名称を含め検討する必要がある。(中川理事)

8. 福祉医療・乳幼児委員会(麻生理事)

【資料8】

- (1)令和6・7年度第3回福祉医療・乳幼児委員会が帝京平成大学池袋キャンパスにて開催された。(令和6年10月24日)

- ①令和5年度5歳児・3歳児健診における聴覚検査および1歳6か月児健診における聞こえの確認方法に関する実態調査の回答状況について

- ・各都道府県における乳幼児健診調査では、全国で5歳児健診が始まっており、今年は5歳児健診の実施状況についての質問も追加されている。

- ②新生児聴覚スクリーニング・乳幼児健診後の精密聴力検査機関・二次聴力検査機関「令和6年受診時に関する実態調査の新規追加および削除申請について」

- ③各WGの進捗状況報告について

障害別の各WGの現状について報告があった。

- ア) 人工内耳・補聴器フォロー医療機関リストWG
- イ) 小児難聴相談医WG
- ウ) 中核機能NHSWG
- エ) 小児気管切開術後調査WG
- オ) 睡眠時無呼吸症候群WG
- カ) 音声言語WG

(2) 小児難聴相談医制度委員会が zoom で開催された。(令和 6 年 11 月 27 日)

日耳鼻、小児耳鼻咽喉科学会、日本聴覚医学会、日本耳科学会の合同委員会である。

- ・小児難聴医療に従事する医師の知識に偏りがあり、地域により格差が生じている。
- ・各自治体の中に小児難聴の中核機能センターを設置し、難聴医療水準の担保、底上げを図ることが求められている。
- ・若い医師も含め常に小児難聴の知識を更新させ、小児科・福祉関係者・行政とも積極的に連携していく人材の育成を目的とする。
- ・「小児難聴診療入門編テキスト」を作成中であり、令和 7 年 5 月の日耳鼻総会にて公開し、HP に掲載予定である。
- ・今後は e-learning システムの構築や小児難聴キーパーソン (KP：仮称) の配置などを検討していく。

(3) 令和 6 年度乳幼児・学校保健合同委員会について

- ・合同 WG として気道関連と健診関連について、乳幼児から学童期以降のシームレスな連携が必要になるため、両委員会が合同で進める案件も多い。
- ・第 126 回日耳鼻総会学術講演会での合同パネルディスカッションについて、福祉医療・乳幼児委員会＋学校保健委員会の企画プログラムを計画中である。

(4) 令和 6・7 年度第 4 回福祉医療・乳幼児委員会が臨床耳鼻科医会会議室で開催された。

(令和 6 年 12 月 12 日)

- ・全国会議において 6 つの WG が報告するため各自の進捗状況の説明があった。
- ・事前にスライドを共有することとなった。

9. 医療安全・医事問題委員会 (阿部理事)

(1) 令和 6 年度医療安全・医事問題ワークショップおよび全国会議について

- ・令和 7 年 1 月 25 日に日耳鼻と合同で TKP 品川カンファレンスセンターにおいて開催予定である。
- ・「事例に学ぶ医事紛争」をテーマとし、出席は各都道府県 2 名までで地方部会にて取りまとめて申し込むこととする。

10. 勤務医委員会 (永田理事)

【資料 10】

- (1) 会報『勤務医のページ』の執筆を村上信五先生と工藤典代先生 (アリス耳鼻咽喉科) に依頼し原稿を受領した。

- (2) 令和 7 年秋季大会の臨床医会セッションのテーマ募集にたいして、勤務医向けのテーマとして以下の 4 つを提案した。

- ・医師の仕事を軽減するための生成 AI の具体的な使い方について
- ・勤務医の多様性とキャリア形成について
- ・女性医師のキャリア形成について
- ・都会と地方勤務医のライフバランスについて

(3)『勤務医委員会主催 web 講演会』の開催についてメールで協議した。

①要望、内容などについて、来年行う予定の勤務医アンケートで調査する。

②開催する場合には、講師と司会による講演会を Zoom ウェビナーで配信し、視聴者から Q&A (チャット) で質問を受け付ける形式で行う。

・ウェビナーで配信するにあたり、新規契約するか業者に依頼するか? (川寄会長)

→業者依頼の見積りを取った。撮影編集 12 万円と公開 3 万円であった。(永田理事)

③後日オンデマンドで視聴できるようにするために、講演会を動画にして YouTube で配信する。

その場合、臨床耳鼻科医会のグーグルアカウントをもちいて臨床耳鼻科医会の YouTube アカウント、YouTube チャンネルを立ち上げることを検討する。

(4) 勤務医アンケートの準備に向けて、前回の勤務医アンケート (2021 年) を生成 AI にかけて解析した。若い先生を対象としたアンケートの実施を考えている。

11. 学術委員会 (吉村理事)

(1) 令和 6.7 年度第 2 回学術委員会が zoom 会議で開催された。(2024. 11. 21) 【資料 11-1】

①学術委員会から提出する日耳鼻秋季大会第 6 回医会セッションのテーマ案 4 題を報告した。

②臨床耳鼻科医会 HP の充実化にあたり学術委員会からの発信案について検討した。

・発信内容としてコロナ後遺症などトピックス的疾患の紹介、各専門家による嚥下・めまい・耳鳴などの診療のコツや How to の紹介、診断基準のまとめや疾患によりスコア化されている表などの掲載等の意見が出た。

・今後は広報委員会等と相談しながら積極的に HP の充実化に係わっていくこととした。

(2) 第 5 回医会セッション現地参加人数について報告した。 【資料 11-2】

・第 1 セッション 156 人、第 2 セッション 204 人と例年より多い人数であった。

・次回の理事会でオンデマンド配信視聴者を合計した最終参加人数を報告する。

12. 会報委員会 (宮部理事)

(1) 会報第 5 巻第 1 号掲載内容 (案) について報告した。 【資料 12-1】

特集として第 5 回日本臨床耳鼻咽喉科医会セッションの記事を掲載する。

・セッション 1

「AC ジャパンの難聴啓発キャンペーン開始後の対応」和佐野 浩一郎先生 (東海大学准教授)

・セッション 2

「親族継承か第三者継承か閉院か、考えておきたい医院の出口戦略」

矢野 弘樹氏 (日本経営ウィル税理士法人・主席研究員)

・「日本臨床耳鼻咽喉科医会セッション聴講記」川島佳代子先生 (臨床耳鼻科医会副会長)

(2) 会報第 5 巻第 1 号見積もりについて報告した。 【資料 12-2】

・カラーページが増えた分の金額が増加している。

(3) 広告依頼先と返答状況について報告した。 【資料 12-3】

13. 地域ブロックから (横田理事) 【資料 13】

東北ブロックの医会長会議 (2024. 7. 13) が開催され、以下のような意見がだされた。

・医会の意義、目指すものを明らかにしてほしい。

・日耳鼻との差異が不明であり、日耳鼻と重複する委員会が多すぎるのではないか?

・会費の値上げで勤務医の医会離れが進むのではないか?

・医会として勤務医向けのテーマを持ってほしい。

・アンケートが多くあるが考察が乏しい、しっかりと考察してほしい。

14. その他

(1) 地域医療委員会の委員の追加について（横田理事）

【資料 14-1】

鹿野真人会員が委員に就任した事を報告した。

鹿野会員は福島県の医会長で、DMAT として東日本大震災の際に活躍し、能登半島地震の際も活動された。

(2) 第 31 回日本臨床分科医会代表者会議（2024. 10. 31）（川寄会長）

【資料 14-2】

日本臨床耳鼻咽喉科医会から難聴対策について報告した。

(3) 令和 6 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業の協力のお願い（麻生理事）

【資料 14-3～14-6】

- ・「難聴高齢者の早期発見・早期対応等に向けた手引きの活用に関する調査研究事業」が始まっている。
- ・全国 15 の自治体でモデル事業を実施中であるため、実施自治体の医会長に協力を依頼した。
- ・難聴対策啓発後に最寄りの耳鼻科を受診するために対応して頂きたい趣旨である。
- ・自治体の担当者を対象とした手引きを前年度に作成し、ブラッシュアップの議論を進めている。

(4) 難聴早期発見事業の注意が必要な問題事例について（横田理事）

- ・山形県のある市で、軟骨伝導集音器に関する講習会を開催し、出席者が購入した場合のみ補助をする事業が始められた。これに関し耳鼻咽喉科は全く関与していない。
- ・山形県では、日耳鼻山形県地方部会長と補聴器キーパーソンの連名で、難聴早期発見・補聴器購入助成事業へのできる限りの協力を依頼する文書を、県内すべての耳鼻咽喉科医に配布する。
- ・山形県医師会長と山形県臨床耳鼻咽喉科医会長の連名で、このような事業を始める際には必ず耳鼻咽喉科を関与させてほしい旨の文書を、県内すべての首長に配布予定である。

協議事項

1. 特定資産への積上げについて（塩見理事）

【協議 1】

- ・今年度（令和 6 年度）の特定資産積み立てにつき協議した。
- ・今年度の経常増減額が約 460 万円しかないため、2023 年の積み立て案通りにはできなくなった。
- ・今年度は、必ず必要となる退職給与積立（257,500 円）と事務所移転積立（4,242,500 円）合計 450 万円のための積み立てとし、大規模災害支援積立資産と周年事業等積立資産に関しては、今期は見送る案が承認された。

2. 相談役およびアドバイザーに関する内規について（松岡理事）

【協議 2】

- ・令和 6・7 年度第 3 回理事会で承認を受けた内規について司法書士の中野先生に確認した。
- ・内容に問題は無いが、相談役とアドバイザーの 2 種の役職があるため、それぞれを別とした章立ての記載方法が良いとの指摘を受けたので、表現を整えた資料を提出した。
- ・既に執行されているので、施行は令和 6 年 9 月 1 日のままとして、内容確認、承認された。

3. 入会規程改正案について（松岡理事）

【協議 3】

- (1) 令和 7 年 4 月より会員種別に C・D 会員が追加されるに伴い、入会規程の改訂が必要となった。
- (2) 規程には具体的な臨床耳鼻科医会在籍年数が必要なため検討し、基本は 10 年とした。
 - ・医会設立 10 年までは第 3 条 2 項により理事会での決議によることとなるか？（川寄会長）

→医会設立 10 年までは、C 会員への種別変更を希望された場合、理事会にて協議する旨を、第 3 条 2 項に規定した。(松岡理事)

- ・在籍年数を満たさずに C 会員への変更を希望した場合（理事会の決議が必要な場合）、変更する理由がわかるか？（玉木理事）

→医会設立 10 年目までは、C 会員への異動希望があった場合はすべて理事会の協議とする。

その際に日耳鼻の退会理由を確認し、協議資料として理事会に提出する。(松岡理事)

(3) D 会員の入会と合わせて 2 箇所の改正として、理事会での承認を得た。

4. 定款改訂について（松岡理事）

【協議 4】

(1) 会員の資格の取得に関する改訂

- ・入会規程の改正に伴い定款第 3 章会員における（会員の資格の取得）にも改訂が必要となった。
- ・現行では、「C 会員は自動的に会員種別が変更されるものとする」とあるが、これを「本会の C 会員になろうとする者は、会員種別を変更することができる」への改訂を協議した。

(2) 第 3 章 6 条 4 項の「D 会員」を「本会の D 会員」として他の会員表現と揃えるよう改訂する。

(3) 監事人数の改訂

①定款第 6 章役員における（役員の設置）において、現行では「1 名以上 2 名以内」とあるが、これを「1 名以上 3 名以内」へと改訂することを協議した。

- ・監事の健康上の理由や交通機関の影響で、監事 2 名とも理事会に出席できない場合も考えられるので定数の再考が必要となった。(浅井監事)
- ・定款を改訂し、3 名以内とした場合、実際に 2 名でも問題はないか？（浅井監事）
→3 名以内のため 2 名でも問題はない。(松岡理事)

②監事人数変更については継続審議となった。

(4) 監事人数変更以外は改訂必要と認められ、令和 7 年代議員総会への議題提出となった。

5. 入会申込書および異動届の書式変更について（松岡理事）

【協議 5-1, 5-2】

(1) D 会員入会申込書の書式訂正について

- ・令和 6・7 年度第 3 回理事会において D 会員入会申込書が認められたが、各都道府県医会の中には医師以外を会員としない医会もある点を考慮し、医会への所属を求めない必要がある。
- ・上記より、「所属する医会」を「管轄する医会」へ、また管轄する医会を耳鼻咽喉科医会に限定するため書式の訂正を協議して承認された。

(2) 異動届の書式変更について

- ・現行の異動届には、勤務先の変更や姓の変更を記載する欄がないことが指摘された。
- ・変更の申請を可能とするために、「登録情報変更欄」を設ける書式変更が協議され承認された。
- ・異動届提出の際は、変更欄のみの記入とするのか？（川寄会長）
→氏名と変更項目のみの記載とする。(松岡理事)

6. C 会員への異動希望者（2 名）について（松岡理事）

(1) 山形県の横山彰夫会員から C 会員への異動希望があった。

- ・現在臨床耳鼻科医会 A 会員として在籍、ご子息への医院継承を理由に 2023 年 12 月に日耳鼻を退会した。
- ・学会等の援助を快くしてくださる先生なので医会に残って頂きたい。(横田理事)
- ・令和 7 年に新設される C 会員への異動希望につき協議し承認された。

(2) 宮城県吉田真次会員から C 会員への異動希望があった。

- ・現在臨床耳鼻科医会 A 会員として在籍、2021 年 11 月に日耳鼻を退会した。

- ・詳細は不明であるが、臨床耳鼻科医会設立以来の会員であるので、令和7年よりC会員への異動希望につき協議し承認された。

7. 成人老年委員会の委員の追加について（大滝理事）

- ・新委員として、島根県安来市の錦織朋之会員の追加就任につき協議し承認された。

8. 耳鼻咽喉科の在宅医療への積極参入について（横田理事） 【協議 8】

- ・地域医療委員会としては、耳鼻咽喉科が在宅医療へ積極的に参入する方針があるので、会員の意識調査としてアンケートを行いたい。
- ・Google フォームを利用したアンケートを用い調査する事が承認された。

9. 医会セッション作業分担案等について（吉村理事） 【協議 9】

(1) 臨床医会セッションの作業内容を時系列として資料にまとめた。

(2) 次期大会臨床医会セッション実行委員について

- ①大会委員長から推薦を依頼された場合、次期大会開催予定ブロックの臨床耳鼻科医会ブロック推薦理事を、医会セッション実行委員長として臨床耳鼻科医会会長が推薦する。
- ②同様に推薦を依頼された場合、基本的には学術担当理事と広報担当理事を推薦する。
- ・次々期臨床医会セッション委員長予定者に次期臨床医会セッション委員になって頂くことが通例になっている。（野上副会長）
- 次期秋季大会委員長の吉崎智一先生に、委員の追加を確認する。（麻生理事）

(3) 講師・座長の謝礼ならびに宿泊費・交通費について

①旅費・宿泊費は大会取り扱い基本では以下のようにになっている。

ア) 座長：両者大会負担、講師：両者医会負担

②医会では、講師の宿泊費・交通費を以下のように取り決めている。

ア) 医会理事： 交通費並びに宿泊費を支払う

イ) 医会委員： 交通費（ならびに必要なに応じて宿泊費）を支払う

ウ) 医会会員： 交通費（ならびに必要なに応じて宿泊費）を支払う

エ) 医会非会員：交通費（ならびに必要なに応じて宿泊費）を支払う

③座長・講師の謝礼

ア) 医会理事・委員： なし

イ) 医会会員・非会員：1セッション講演料 10 万円を講師人数で案分

- ・上記に対し了承された。

10. 令和7年開催の第6回医会セッションテーマ案について（吉村理事） 【協議 10-1, 10-2】

(1) 都道府県医会長あてに医会セッションテーマのアンケートを行った。

- ・学校健診、オンライン診療、医療DX、耳鼻咽喉科診療関連、診療報酬、医会活動、医療環境対策などの他に、勤務医委員会からも医療環境対策などのテーマが挙げられた。

(2) 引き続き、医会セッションのテーマにつきメール会議を含め検討を行うことが了承された。

11. 補聴器装用に係わる診療のお願い（案）について（中川理事） 【協議 11】

- ・認定補聴器専門店から診療所へ依頼する「診療依頼補聴器装用に係わる診療のお願い」用紙の様式変更を行いたい。
- ・新に医師記入欄を設け、鼓膜および外耳道所見と「聴力検査結果」、「補聴器適合に関する診療情報提供書」などを添付し認定補聴器専門店へ回答する書式である。
- ・「日耳鼻のロゴ」と「臨床耳鼻科医会のロゴ」の併記を考えているが、臨床耳鼻科医会のロゴの使用につき協議し承認された。

- ・用紙中の補聴器販売に関する禁忌事項の最初に、「耳の手術を受けたことがある」という項目があるが、最近では根治術後耳にノイズキャンセラー機能のあるオープンフィッティング補聴器を装用しているのを見掛けることがある。これに関してはどう考えるべきか。(阿部理事)
→補聴器技能者には手術内容が分からないので、この項目がある。禁忌項目とは補聴器技能者が医師に相談することなく補聴器を販売してはならないという意味である。(中川理事)

12. 会員管理サービスについて、アンケートへの回答依頼 (案) (塩見理事) 【協議追加 12】

- ・各都道府県に依頼している年会費の徴収を、臨床耳鼻科医会が直接徴収できるようにすべく、導入する会員管理・決済管理システムの選定を行っている。
- ・導入するシステムによっては、各都道府県医会の会費も別途徴収できたり、都道府県医会毎に所属会員に対してのみメールで情報を配信できるオプション (有料) もある。
- ・システム選定にあたり、各都道府県の年会費徴収方法と会員への情報配信方法の調査、および新規導入システムでこれらのオプションの利用希望を伺うアンケート調査の実施を協議し承認された。
- ・それらのオプションは全ての都道府県が利用しなければならないのか? (横田理事)
→都道府県毎の選択となる。(川寄会長)

その他 特になし

今後の日程 2025 年 (令和 7 年)

医会報告会議	1/8 (水)、1/29 (水) 20:00～、Zoom
日耳鼻社会医療部全国会議	1/25 (土) ～ 26 (日) TKP 品川カンファレンスセンター等
第 5 回理事会	3/23 (日) 13:00～、医会会議室
医会設立および 5 周年記念祝賀会	4/13 (日) 11:30～、グランドプリンスホテル高輪

以上で、議事をすべて終了し、令和 6・7 年度第 4 回理事会が閉会となった。

以上の決議を明確にするため、本議事録を作成し、出席した代表理事及び監事が次に記名押印する。

令和 6 年 12 月 15 日

一般社団法人日本臨床耳鼻咽喉科医会

代表理事 川 寄 良 明 (法人実印)

監 事 浅 井 英 世 (印)

監 事 高 原 哲 夫 (印)

(法人実印)

(印)

(印)